ジュニアエリートアカデミープロジェクトにおける、公募によるアシスタントコーチ育成について

文責：佐々木　三男



平成 25 年度ジュニアエリートアカデミープロジェクトでは、指導者育成の一環として公募によるアシスタントコーチ（以下、AC）育成プログラムを提案いたしました。

全国から約 30 名を超す応募者がありました。各キャンプ、JBA から宿泊・費食費を補助し、更に自費参加の方々を含めると、約 10 名前後の方々が参加しています。また、参加者にはレポートの提出を以って、リフレッシュポイントを付与する事としています。

AC の方々には、バスケットボールのスキル指導やドリルの補助、シューター育成のアプローチなどで、各自指導担当の生徒が割り当てられています。指導内容については、ロイブル氏や日高氏の指示のもと、指導案や生徒の問題点や課題を提案し、指導スキルの向上のための場を提供しています。

更に両氏によるセミナーもキャンプ期間中随時設定されているので、指導の理念、スキルの意味や生徒たちの動機づけについてレクチャーを受けています。また両氏への個別の質問も自由に行われています。

上記の写真は、第 4 回キャンプ 2 日目、1 月 11 日(土)早朝（8:00～8:50：生徒たちは学習時間）に行われたロイブル氏によるセミナーの様子です。テーマは、中学生におけるピック＆ロールの意味と攻守の指導法でした。本テーマは、ロイブル氏が参加した 2013 年プラハで開催された FIBAU-19 男子世界選手権における最も多く使われていたプレイで、ピック＆ロールは世界の潮流であり、それに対する対応策の解説でした。

以上、毎回のキャンプで、指導者育成の一端としてセミナーを開催している事をご紹介しました。

※すべての資料の複写および転用はご遠慮願います